

説教要旨「悪魔の誘惑」

ルカによる福音書4章1～13節

イエス様は、聖霊によって荒れ野へといざなわれ、そこで40日間過ごす間に悪魔から試練を受けました。そしてその悪魔の誘惑にイエス様は打ち勝ちました。イエス様が戦い、打ち勝たれた悪魔の誘惑とはどのようなものだったのか。悪魔はここで三つのことをイエス様に語りかけました。第一は3節の「石にパンになるように命じたらどうだ」という誘惑です。第二は6、7節で「この国々の一切の権力と繁栄とを与えるかわりに、悪魔を拝む」というものです。第三は9～11節で神殿の屋根から飛び降りてみる。神の子であれば天使があなたをしっかりと守らせる。』だろう、と。悪魔はこの三つのことによってイエス様を誘惑したのです。

すこし足下がぐらついただけで神様を疑って進めなくなってしまう。困難な状況に置かれた時に、「もう神様なんかに頼ってられない」「神様に見捨てられたんだ」とあきらめてしまう。主イエス・キリストがこの世に来て下さったのは、そのような私たちのためです。神の子であるイエス様が、人間となってこの世を歩いて下さり、悪魔のこの誘惑を受け、それに打ち勝ったにもかかわらず、そして孤独に、惨めに十字架にかかられたのです。しかしそこで終わりではなかった。主は死に打ち勝ち、復活なされた。神様が私たちのことを愛してやまず、決して見捨てない方であることを示してくださったのです。

私たちの歩みは、常に悪魔の誘惑にさらされています。イエス様においても、荒れ野の誘惑に失敗した悪魔は、しかし「時が来るまで」、つまり一時的にイエス様を離れたただけだったと最後の13節にあります。悪魔は再び襲ってくるのです。その時とは、イエス様の十字架の苦しみと死の時です。しかし荒れ野の誘惑を退けたイエス様が、神の子としての歩みを、十字架の死に至るまで歩み通して下さったことによって、私たちにも、神の子として悪魔の誘惑を退けて生きる道が開かれているのです。